I am Jazz!（ジャズ・スーパー列伝）

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 76
Clark Terry【クラーク・テリー】
～マイルス等にも影響を与えた名トランペッター～

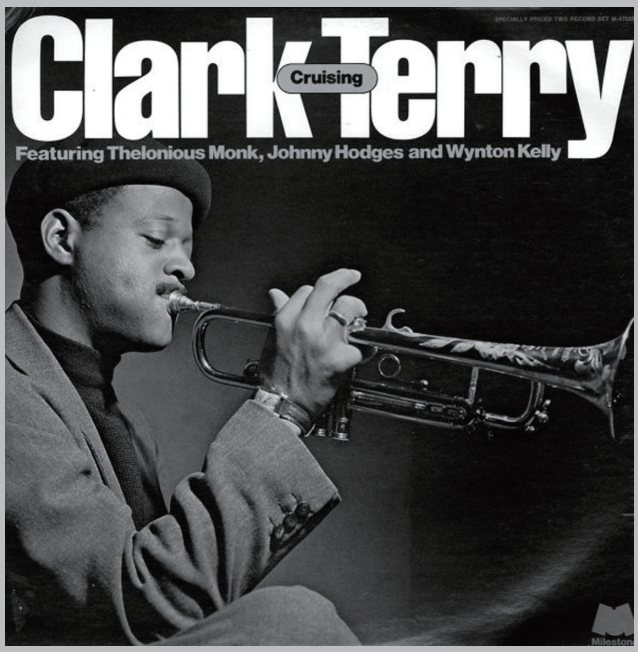

Photo : Clark Terry "Cruising" (Milestone Records)

Profile

1920 年 12 月 14 日、米国ミズーリ州セントルイス生まれ。本名は Clark Virgil Terry Jr.。ハイスクール時代からプロ活動を始め、40 年代に地元のクラブで演奏。40 年代前半頃からセントルイスのジャズ・シーンで頭角を現す。第二次世界大戦中は海軍のバンドで演奏。47~48 年にチャーリー・バーネット楽団、48~51 年にカウント・ベイシー楽団、51~59 年にデューク・エリントン楽団、59~60 年にクインシー・ジョーンズ楽団に参加。この間の演奏スタイルは、マイルス・デイヴィス等にも影響を及ぼした。60 年に NBCTV で初のアフリカ系アメリカ人スタッフ・ミュージシャンとして迎えられる。その後、約 10 年間「ザ・トゥナイト・ショー」に出演し、ドク・セバリンセンをリーダーとした“トゥナイト・ショー・バンド”に参加。この頃にニックネームの“マンブルス（Mumbles）”が定着し、トランペットだけでなく、ヴォーカルでも高い評価を得る。64~66 年にボブ・ブルックマイヤーとの双頭コンボで活動。J・J・ジョンソン、オスカー・ピーターソン、T - ボーン・ウォーカー等とも共演。60 年代後半からは自己のビッグバンドを結成。70 年頃より、トランペットからフリューゲルホルンに持ち変える。70 年にビッグ・バッド・バンドを結成し、リーダーとして 80 年代までツアーを行う。2000 年以降は、ホストとしてジャズ・フェスティヴァルやジャズ・キャンプを開催し、後進の育成にも尽力した。80 歳を過ぎても精力的に演奏活動を続け、2014 年には晩年を描いたドキュメンタリー映画「キープ・オン・キーピン・オン（原題：Keep On Keepin’ On）」が公開された。晩年は自宅療養を続け、2015 年 2 月 21 日、米国アーカンソー州パインブラフで息を引き取る。享年 94 歳。

CT's Great Album

参加したレコーディングは 800 作品とも 1000 作品とも言われ、リーダー・アルバムから共同リーダー・アルバムをはじめ、サポートとしても数々の名演・好演を残している。

クラーク・テリーの代表作の一つ

自身のニックネームを冠した

マンブルス
クラーク・テリー
（Solid/Mainstream：CDSOL-45281）

クラーク・テリー (tp)、ジェローム・リチャードソン (fl)、エリック・ゲイル (g)、ジョージ・デュヴィヴィエ (b)、他

1. ザ・マンブラー・ストライクス・アゲイン 2. ビッグ・スペンダー 3. ラム・アンド・マンブルス 4. いそしぎ 5. マンブルス（他、全 11 曲）

ニックネームの『マンブルス（Mumbles）』がタイトルのアルバムで、録音は 1966 年。エリック・ゲイル、ジョージ・デュヴィヴィエ、リチャード・デイヴィス、グレイディ・テイト、ウィリー・ボボ等、名手＆職人が参加したクラーク・テリーの代表作のひとつ。「ザ・マンブラー・ストライクス・アゲイン」「ビッグ・スペンダー」「ラム・アンド・マンブルス」「マンブルス」「ナイト・ソング」「エル・ブルース・ラティーノ」等、全 11 曲。クラークの魅力が満載。

クラークとボブ・ブルックマイヤーとの双頭レギュラー・コンボの快作

ジンジャーブレッド・メン
クラーク・テリー/ボブ・ブルックマイヤー・クインテット
（Solid/Mainstream：CDSOL-45294）

クラーク・テリー (tp)、ボブ・ブルックマイヤー (tb)、ハンク・ジョーンズ (p)、ボブ・クランショウ (b)、デイヴ・ベイリー (ds)

1. ヘイグ・アンド・ヘイグ 2. アイ・ウォント・ア・リトル・ガール 3. ムード・インディゴ 4. ミロズ・アザー・サンバ（他、全 9 曲）

双頭レギュラー・コンボで活動していたクラーク・テリーと名トロンボーン奏者ボブ・ブルックマイヤーのスタジオ録音作品。ハンク・ジョーンズ、ボブ・クランショウ、デイヴ・ベイリーのリズム陣をバックにクラークとボブ・ブルックマイヤーが心地良くスイングする。「ムード・インディゴ」「ジンジャーブレッド・ボーイ」「マイ・ギャル」「バイ・バイ・ブラックバード」等、クラークの名演が聴ける。1966 年録音。ジャケットも微笑ましい。

クラークとジャズ・ベースの名手レッド・ミッチェルによるデュオ作品

ジャイヴ・アット・ファイヴ
クラーク・テリー＆レッド・ミッチェル
（Solid/Enja：CDSOL-46473）

クラーク・テリー (tp, flh)、レッド・ミッチェル (b, p, vo)

1. ジャイヴ・アット・ファイヴ 2. レイト・デイト 3. ソフィスティケイテッド・レディ 4. ラヴ・ユー・マッドリー（他、全 11 曲）

クラーク・テリーとスウェーデンから米国に帰国して来たジャズ・ベースの名手レッド・ミッチェルとのデュオ作品。デューク・エリントンとカウント・ベイシーの楽曲を熱演。クラークはトランペットとフリューゲルホルンを聴かせ、レッド・ミッチェルがベースとヴォーカルも披露。「コットン・テイル」と「キュート」はそれぞれ（テイク 1）と（テイク 2）を収録。1988 年録音。いぶし銀の 2 人による好演が詰まった玄人好みのアルバム。

マンブルス

米国セントルイスで同郷のマイルス・デイヴィスのアイドル的存在だったクラーク。チャーリー・バーネット楽団、カウント・ベイシー楽団、デューク・エリントン楽団、クインシー・ジョーンズ楽団と名立たる楽団で好演し、6 歳年下で高校生だったマイルスに“クラーク・テリー以上にヒップになってやろう！”と決心させた逸話を誇る。後年にはキング社から「CT」とイニシャルが入った四角いプレートが付いているクラーク・テリーモデルのトランペットも発売された。そして、“マンブルス（Mumbles）”という独特の歌い方でヴォーカリストとしても高い評価を得た。

映画「キープ・オン・キーピン・オン」

クラークは来日も数回しており、1986 年にはジョン・ファディスと共にサントリーホワイトのテレビ CM にも出演。94 才でこの世を去ったクラークの晩年を描いたドキュメンタリー映画「キープ・オン・キーピン・オン」が 2014 年に全米公開された。残念ながら日本では公開されていないが、90 才を越え、糖尿病の合併症と闘いながらジャズに生きるクラークと師弟関係にあった盲目のピアニスト、ジャスティン・コーフリンの姿を 4 年間に渡って捉えた作品だ。監督はアラン・ヒックス、製作はクインシー・ジョーンズが手掛けている。日本公開に期待！

Jazz Standards（ジャズ名曲列伝） Vol.49

~ After You've Gone【アフター・ユーヴ・ゴーン】~

この曲はポピュラーソングとして、ターナー・レイトンが作曲、ヘンリー・クリーマーが作詞を手掛けた。1918 年のマリオン・ハリスの録音が一番古いと言われている。日本語のタイトルは「君去りし後」、もしくは「君去りしのち」。ルイ・アームストロング、ベニー・グッドマン、コールマン・ホーキンス、エラ・フィッツジェラルド、ジャンゴ・ラインハルト＆ステファン・グラッペリ等、数多くのアーティストに取り上げられ、現在まで親しまれている。

★ この名曲が聴けるお薦めのアルバム

ロイ・エルドリッジ 『アフター・ユーヴ・ゴーン』
ソニー・クリス 『ゴー・マン！』
秋吉敏子 『メニー・サイズ・オブ・トシコ』
アル・コーン＆ズート・シムズ 『ハーフノートの夜』
ジュディ・ガーランド 『ジュディ・アット・カーネギー・ホール』